

## 6次産業化へ商品開発

### JA新ふくしま パン製造業と提携

JA新ふくしま(福島市)とパン製造・販売の銀嶺食品(同)は、県産農産物の6次産業化に向けて、21日に包括的業務提携契約を結ぶ。同JAが地元の農産物を同社に供給し、両者のノウハウを生かして玄米パンやスイーツなどの加工品を開発する。同JAの農産物直売所のほか、インターネットや大手流通業の販売網を活用し、全国展開する計画だ。

JA新ふくしまは、価格の底上げも期待できる。銀嶺食品にとっては、原料仕入れの際の中間コストを削減できるなどの利点がある。両者は業務提携と併せて、県産の穀物や果物を原料とするパン・スイーツの新ブランド「coc

oilapan(こいらばん)も立ち上げる。2月15日から福島市と福島県川俣町の農産物直売所で順次販売する。

## 日本農業新聞

## パン新ブランド立ち上げ

## 食品会社と業務提携

意とする同社が組むことで、農業と地域経済の活性化につなげる。JA管内産の農産物を使ったパンの新ブランドを立ち上げ、2月に発売。初年度は、売上高7000万円を目指す。

福島県のJA新ふくしまは21日、パンや菓子を製造・販売する銀嶺食品(福島市)と業務提携契約を結んだ。農産物の生産や集荷が強みのJAと、商品開発や製造・加工などを得



開発した玄米パンをPRする菅野組合長(左)と銀嶺食品の岡崎慎二社長  
(21日、福島市で)

## JA新ふくしま 地域活性化めざす

業務提携では、JAと農産物の販売を共同で、6次化商(手掛け、オリジナルブランド)の立ち上げや人材交

流も取り組む方針だ。

JAは初年度、特別栽培米2ト、規格外品を含むリンゴ100トを同社に直接供給。同社は、JA産を使った玄米パンやアップルパイ、国産にこだわったパン20〜30種類を開発。共同の新ブランド「coco-la-pan(こころぱん)」として売り出す。

商品は2月以降、JA農産物直売所「こころ」全7店舗で発売。3月に誕生する「JA新ふくしま未来」管内の直売所やJAのインターネット通販でも扱う。同社の販売網で全国発売する予定だ。

今後、桃やニンジン、ジャガイモといった農産物の提供も検討する。農産物の生産から加工、販売までを地域で賄うこと

で、農業と経済の活性化につなげる考えだ。  
福島市で同日開いた締結式で、JAの菅野孝志組合長は「付加価値を高めて販売し、福島の農産物に対するイメージをブラすにし、世界に商品を広めたい」と意気込んだ。



# 福島民報

2016 (平成 28) 年

1 月 22 日

金曜日

## 「coco-lapan」共同展開 包括的業務提携を締結

### JA新ふくしまと銀嶺食品

JA新ふくしま(本  
店・福島市)とパン製  
造販売の銀嶺食品  
(本社・福島市)は  
本市のJA新ふくし  
ま本店で締結式を行



「coco-lapan」を手に  
する菅野組合長(右)と岡崎社長

い、関係者が新ベーカ  
リーブランド「coco  
lapan(こ  
ころばん)」を掲げ、  
共同で展開する六次化  
事業への意気込みを語  
った。

JA新ふくしまの菅  
野孝志組合長は「お互  
いが持つノウハウを最  
大限に生かし、生産、

加工、流通の調和が取  
れた社会の実現を目指  
す」と抱負を述べた。

銀嶺食品の岡崎慎二社  
長は特別栽培米を原料  
にした玄米パンを紹介  
し、「日本人好みの味  
になっている。福島  
復興にとどまらず、新

しい流通の仕組みを確  
立して多くの県民に勇  
気を与えたい」と語っ  
た。

JAグループの自己  
改革に関する有識者会  
議で座長を務める中央  
大大学院戦略経営研究  
科の杉浦宣彦教授が同  
席し、「福島は首都圏  
に近く、販路拡大が見  
込める。業務提携を地  
域の良さを発信する第  
一步にしてほしい」と  
期待した。

JAが材料生産、銀  
嶺がパン・スイーツの  
加工を担う。二月中旬  
から順次、福島市と川  
俣町にあるJAの農産  
物直売所「ここら」の  
七店舗で販売する。イ  
ンターネットや大手流  
通販売網を活用し、国  
内外への展開も視野に  
入れている。



2016年(平成28年)

1月22日(金曜日)

旧暦12月13日 赤口 四緑

# 福島民友

THE FUKUSHIMA MINYU



契約書を交わす菅野組合長  
(右)と岡崎社長

「coco-lapan」共同展開

## JA新ふくしまと 銀嶺食品業務提携

JA新ふくしま(菅野孝志組合長)と製パン・製菓の銀嶺食品(福島市、岡崎慎二社長)は21日、農産物の生産から加工、販売までを手掛ける6次産業化を戦略的に進めるため、包括的業務提携契約を結んだ。パンやスイーツの新ブランド「coco-lapan(こくらばん)」を共同展開し、初年度は7千万円の売り上げを目指す。

玄米パンなどの商品を2月13日から4月にかけて、福島市と川俣町の同JA農産物直売所「こくら」全7店舗で順次売り出す。両者のノウハウを生かし、6次化の地域モデルにしたい考え

初年度7000万円売り上げ目標

だ。締結式は21日、福島市の同JA本店で行われ、菅野組合長と岡崎社長が契約書を交わした。席上でコメと麦、吾妻山の「雪うさぎ」をあしらったブランドロゴ「写真」を発表した。菅野組合長が「福島農産物や農家の方々の心を全国、世界に発信する事業にしたい」、岡崎社長が「福島島のイメージをプラスに変えたい」と意欲を述べた。





2016年(平成28年)1月22日(金曜日)

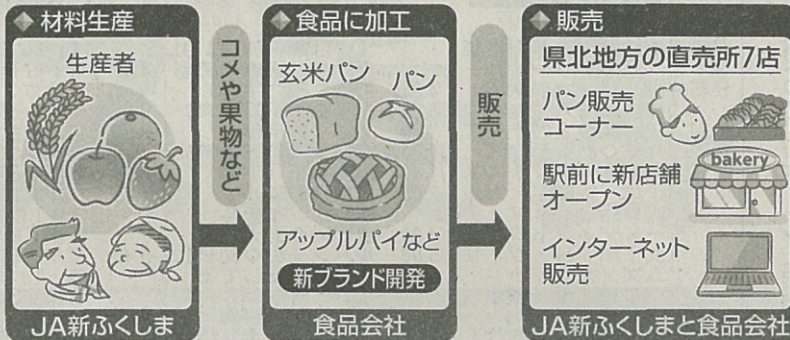
言

宣

衆

聞

## JA新ふくしまが食品会社と始める新事業のイメージ



◀新ブランドのパンを手にする銀嶺食品の岡崎慎二社長(左)とJA新ふくしまの菅野孝志組合長(21日、福島市で)

JA新ふくしま

## 製パン会社と提携 新製品

## 生産から販売新ブランド

福島市のJA新ふくしま(菅野孝志組合長)は、同市の製パン製菓会社「銀嶺食品」(岡崎慎二社長)と2月に始める。農産物の生

産から加工、販売まで手がける6次化事業で、新ブランドで売り出す。同JAの組合員が生産す

るリンゴの入ったアップルパイや、コシヒカリ「吾妻の輝き」の米粉を使った玄米パンが主力商品。新ブランド「coco-tan pan」として、農産物直売所「coco」7店などで販売する。将来

的には、同社の取引先にも販路を広げる方針。

2月13日から市内3店で先行的に販売し、当面は地元産以外を使った商品を含め20種類以上を並べる。

業務提携により、同JAは表面に傷が付いて市場に出せない果物も加工用と

して納入できるため、生産者の収入増が期待できる。同社は原材料を生産者から直接仕入れることができるため、コスト削減につながる。最初の1年で7000万円の売り上げを目指すという。

21日にJA本店で行わ

れた業務提携の締結式で菅野組合長は「農産物のおいしさを多くの人に伝えられ、生産者の励みになる」と期待。岡崎社長は「製造技術を生かし、福島のおいしい農産品をより多くの人に届けたい」と話した。



新ふくしま農協と銀嶺食品

## 6次化商品へ提携 玄米パンなど2月発売

新ふくしま農協(福島市)と品(同)と地元農産物を活用したパン製造の銀嶺食品は21日、パン製造の銀嶺食品 用したパンやスイーツなど



共同開発したパンをPRする菅野組合長(右)と岡崎社長

6次化商品の開発や販売に取り組み包括的業務提携契約を結んだ。「coco-laplan(こころばん)」のブランド名で、2月中旬から玄米パンなど約30品目を売り出す。

新ふくしまはコメや規格外のリングを提供。銀嶺食品が製品化し、福島市と福島県川俣町の新ふくしまの農産物直売所などで2月13日から順次販売する。初年度は7000万円の売り上げを目指す。

主力商品の玄米パンは特別栽培米「吾妻の輝き」を主原料の4割に使用。米粒

をレトルト加工することで、ミネラル成分を保ったまま軟らかい食感を実現した。

新ふくしま管内のリング生産量は年間約1万5000ト。銀嶺食品は約100トを引き受ける計画。業務提携により、ほとんど流通しなかった規格外農産物の販売先が確保され、農家の所得増が見込める。銀嶺食品は原材料の安定的な仕入れと流通コスト削減に期待する。

新ふくしまは3月、周辺3農協と合併予定で、新農協発足以降も提携を継続して販路拡大を図る。

農協本店で21日あった締結式で、新ふくしまの菅野孝志組合長は「福島県産の素材を全国に売り込みたい」とあいさつ。銀嶺食品の岡崎慎二社長は「6次化産業で福島県のプライズイメージを発信したい」と述べた。